

「活用型学力」 を育てる本

小宮山 博仁 著



学校の授業で、家庭学習で、受験で一。
今求められる「新しい学力」を一冊に凝縮！

学校の先生、保護者、学習塾経営者はもとより
教育に関心のあるすべての人に読んでいただきたい一冊です！

きょうせい

はしがき

21世紀になると、日本は多くの危機に直面していることが明らかになってきました。第5章で詳しく述べていますが、少なくとも6つの解決しなくてはならない難問が、次から次へと出てきました。このことは東日本大震災（3.11）以降改めて分かってきました。

環境問題、原子力発電の問題、再生可能エネルギーの産業化の問題、経済不況の問題、食糧危機の問題、持続可能な社会にする問題などです。このような問題を多くの市民が考えるきっかけになったのが、2008年9月のリーマンショックと、3.11の天災や人災ではないでしょうか。

このような問題を考えたり対処したりするために、教育にはどのようなことができるのか問われる時代になってきたと言ってもよいでしょう。このような危機をグローバルなレベルで解決しようと考えている組織がOECD（経済協力開発機構）です。学習効果のある教育とは何か、これから求められる能力（Competency）は何か、という提案をここ15年にわたって盛んに行っています。2000年から始められた国際学力調査（PISA：ピザ）は日本でも有名になりました。

OECDがよく使う「能力」という言葉は、今まで日本の教育界でよく使われていた「学力」とは意味が違ってきます。日本の学力は、能力というよりもachievement（達成・成績）という意味合いが強くあります。また、学力は日本独特の言葉になってしまったこともあり、英訳しにくいとも言われています。学力が高い＝頭がよい＝IQが高い、と連想をする父母がほとんどではないでしょうか。

OECDは、もっと広い人間の力を表現するCompetencyという言葉をよく使います。そのため、この本では、グローバルな社会に通用する力を示すときには「能力」（Competency）という言葉を使っています。この能力は、実は現在の教科書や入試によく出てくる「活用型学力」と、とても関連があるのです。

本書では、今なぜ「活用型学力」なのか、「活用型学力」とは何なのか、総合的な学習や調べ学習とどのような関係があるのかを明らかにしていきます。さらに、「活用型学力」に結びつく学びのモチベーションは内発的なのか外発的なのかにも言及していきます。

今までの学力については、研究者や実践家が多くの本を世に出しています。そ

れなのになぜ「活用型学力」を是としたこの本をまとめたかと思ったのかを、簡単に以下に示しておきます。

1970年代前半の小中学生の学習項目は、ここ50年近くの間で一番多かったことが分かっています。例えば、中学の数学の教科書には集合や2進法、統計、確率、3次関数、逆関数などの項目がありました。これらの学習項目は、中学生にとっては難しい内容だったので、10年後の学習指導要領の改訂で再び高校へ移行しました。その期間に、授業についていけない「落ちこぼし」や「校内暴力」などが話題になり、学校は「詰め込み教育」という批判を浴び、受験競争が激化しているという情報が、マスコミを通して広まった時代でした。

そのため1980年代からは、教科書は改訂されるごとに、少しずつ易しくなり、学習項目も減り、教科書自体も薄くなっていきました。一番易しくなったのが、2002年のいわゆる「ゆとり教育」といわれる時期の教科書です。同時に調べ学習などを取り入れた総合的な学習も本格的に行われるようになってきましたが、今度は学力が低下するのではないかという批判を浴びました。それに応えるため、2011年から教科書の学習内容は再びふえ、20年ほど前とほぼ同じような量になったのです（学習量がふえたことを知っている方は多いと思いますが、その内容について知っている方は少数派ではないでしょうか）。

このように、「学力」を中心とした教育に関する考え方や見方がその時の社会状況によってかなり変化していきました。振り子が左右に振れるように、教育政策も変わっていききましたが、その間に先に示したような、解決しなくてはならない大きな6つの問題を、日本は抱えることになってしまいました（第5章参照）。

日本の教育政策が揺れている最中に、OECDは2000年からPISAを始めましたが、これは現在の文部科学省が1990年代から学校教育に取り入れようとした総合的な学習や調べ学習で身につけてほしいと願っている「学力」と近いものがありました。PISAでは「問題解決型能力」を調べる問題が多いという特徴があるからです。

6つの大きな社会問題を背負った日本は、グローバル化した社会に対応できる人材を育てなくてはならないという危機感が、教育界や政財界の人々の共通認識となりつつあります。これらのことを意識して、2011年から新しい教科書が作られているのです。しかし、まだその内容を具体的に知っている方が少ないのではないのでしょうか。

ここ5年ほどは、「活用型学力」のことがよく話題になります。グローバル化した社会で必要なことは何となく分かるが、「活用型学力」とはそもそも何なの

か、どのようにしたらその学力を身につけることができるのかがよく分からない
と思っている方々にぜひ読んでいただきたいと思って、この本をまとめてみまし
た。具体例を多く入れて説明をしているので、最後まで読んでいただければ、な
ぜ「活用型学力」が必要なのがわかっていただければと思います。

この本を読む時のキーワードを以下に10個示しておきます。参考にしながら
読み進んでいただければ、より理解しやすくなるでしょう。

〔活用型学力、生涯学習、能力 (Competency)、OECD、PISA、全国学力・学
習状況調査 (全国学力調査)、問題解決型学力、日本の6つの危機的な問題、総
合的な学習〕

「活用型学力」を身につけて、仕事や入試に役立てることも、ぜひ考えてほし
いと思います。混迷している現代社会では、今後ますます教育の役割が重要にな
ってきます。そこで、子どもたちがこれからの社会を生き抜くために必要なのが
「活用型学力」なのです。安心な社会、幸せな家庭、健全な市民社会を築く力が
「活用型学力」と言ってもよいでしょう。学校の授業や家庭学習 (塾や通信添削
なども含む) をする時の参考にしていただければ幸いです。

2014年3月
小宮山博仁

はしがき

第1章 活用型学力とは何か 1

- 1 今、ほんとうに求められている役立つ学力とは 2
- 2 「内発的動機付け」が学びのモチベーションを高める 2
- 3 活用型学力とは 4
- 4 活用型学力は自律的な内発的動機付けから 5
- 5 入試問題や教科書はすでに活用型になっている 6

第2章 新しい教科書から見る活用型学力 19

① 公式中心から活用中心の算数へ 20

- 1 速さ(算数) 20
- 2 帯分数と仮分数 25
- 3 ひし形と台形 29
- 4 いろいろな立体の体積の求め方 33
- 5 拡大図・縮図と縮尺 38
- 6 文字を用いた式 43

② 国語の学力向上は新聞活用で 49

- 1 新聞を活用した授業 49
- 2 新聞の構成 51
- 3 小学生の新聞活用法 52

③ 「読み取る能力」を育てる社会科へ 54

- 1 今なぜ資料を読み取る能力が大切なのか 54
- 2 社会科に関する図を読み取る学習 54
- 3 社会科に関する資料を読み取る学習 58

④ 資料を活用した理科の学習 62

- 1 理科の資料を読み取る力がなぜ求められるのか 62
- 2 グラフを読み取る学習 63
- 3 図を活用した授業 67

第3章 10歳の壁を超えるには 71

① 10歳の壁とは何か.....72

- 1 10歳の壁を算数を中心に考える 72

② やる気を育てる家庭で10歳の壁を超える.....74

- 1 家庭環境と学力の関係 74
- 2 やる気を育てる勉強部屋とは 75
- 3 テレビ・テレビゲームとやる気 76
- 4 会話のある家庭と子どものやる気 77
- 5 やる気を育てる家庭 77

③ 算数の学力を伸ばし10歳の壁に挑戦.....79

- 1 原理・しくみがなぜ大切か 79
- 2 面白い内発的動機付けだけで学力は育つか 80
- 3 自律的な内発的動機付けと子どもの意欲 82
- 4 練習することの大切さ 83

④ 家庭学習を活用して10歳の壁に挑戦.....84

- 1 家庭環境の現状 84
- 2 受験圧力と家庭学習 84
- 3 家庭学習を促すには 85

第4章 活用型学力を伸ばす方法 89

① 生活体験を豊かにして活用型学力を伸ばす.....90

- 1 遊びは学ぶ能力を伸ばし社会性を身につける 90
- 2 しつけができているとねばり強くなる 91
- 3 しつけの基本は、「あいさつ」ができること 93
- 4 お手伝いをする「活用型学力」が身につく 94
- 5 箸が上手に使えるようにしよう 95
- 6 絵本の読み聞かせで想像力をアップさせる 96
- 7 話しかけは子どもの言語能力を高め大人のおしゃべりは子どもを無口にする 97
- 8 フラッシュカードのような暗記学習は活用型学力に結びつきにくい 98
- 9 結果だけを求める極端な先取り学習で活用型学力を伸ばすのは難しい 100
- 10 食事のときはテレビを消して家族でコミュニケーションしよう 101
- 11 体験したことを学校で学んでいることに結びつける 103

- 12 自然体験は脳を活性化させる 104
- 13 親の好奇心は子どもに伝わる 105
- 14 TVニュース、図鑑、マンガ、インターネットなども大いに活用しよう 106
- 15 協調性のある子どもは活用型学力が伸びる 108

2 算数の文章問題・記述式問題で活用型学力を伸ばす……110

- 1 算数の文章問題・記述式問題が不得意な子どもの特徴 110
- 2 文章問題や記述式問題に取り組みさせる方法 110

3 活用型学力を伸ばす環境を整える……115

- 1 子どもの学力形成の社会的背景の違い 115
- 2 文化資本と経済資本が学力に及ぼす影響 116
- 3 現代の社会で10歳の壁を乗り越えるには 118

4 活用型学力を塾で伸ばせるか……120

- 1 塾で子どもの勉強嫌いが改善するか 120
 - 2 塾と活用型学力の関係 124
 - 3 学校と塾の連携で活用型学力は伸ばせるか 127
- 補論 家庭のしつけと活用型学力の関係 130

第5章 活用型学力で子どもの未来を拓く……137

- 1 工業化社会から知識社会へ 138
- 2 グローバル化した社会で生きていくための能力 140
- 3 日本の6つの問題と活用型学力 148

むすびに代えて

参考文献